

2017 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録2限目》

《講座のメインテーマ》

防災の最新知見と

地域防災実践事例を学ぶ

記録：講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日：2017 年 10 月 19 日(木) 13:30~17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 地震学の最新知見を学び、県の最新防災施策を聞く

・前半：『地震・防災の最新知見と地域防災への提言』

講師：荻本 孝久 氏（神奈川大学工学部教授、「防災塾・だるま」塾長）

・後半：『神奈川県の最新防災施策を聞く』

講師：杉原 英和 氏（神奈川県安全防災局安全防災部長）



講義後の意見交換の様子



講師：荻本孝久塾長

《自然災害の発生危険性が高まった！》

○忘れない！日本は『災害が多発する自然環境』

日本全体が地震活動期に。平均温度は、
右上がり、日降水量と竜巻被害も増加。

○地球は変動！氷河性海面変動(右の写真)と
地殻変動による地形・地盤はゆっくりと変化。

○約 2 万年前から堆積されてきた

表層軟弱地盤の関東平野

○神奈川県は地震災害の危険性が
高い地域(多重プレート境界領域)



進行：高松清美さん

《正しく知ろう！地域の災害リスク》

○横浜市の地震被害想定(元禄型関東地震等の8つの想定地震)

鶴見川、帷子川、大岡川、柏尾川、境川の河川域に柔かな地盤。

元禄型関東地震は震度 6 弱以上、海岸線地域では液状化被害も。

○住んでいる土地の特性を正しく知ることが重要。

・横浜市の『わいわい防災マップ』の活用

揺れの強さ、液状化の発生危険性、火災の危険性、浸水予想等。

《『かながわ人と智の防災・減災ネットワーク』が活動開始！》

・産官学民の様々な地域での防災・減災情報を提供し、交流する場。

《まとめ》「人と智をつなぐ」

◇高めよう！

災害に対する防災意識

地震災害の危険性に対する認識

◇地域で協力して取り組もう！

『地域の防災・減災対策』

◇広げよう産官学民の連携の輪！

『かながわ人と智をつなぐ

防災・減災ネットワーク』



講師：杉原英和氏

《火災対策を中心とした地震対策からスタート》

○1946 年南海地震後に災害救助法、水防法。1948 年福井地震後に建築基準法。1959 年
伊勢湾台風後に災害対策基本法。【被災後に法律等を整備、東海地震説を受けて地震予知推進】

○1971 年『神奈川県大震災避難計画』策定。地震対策(特に火災対策を中心に)スタート。

○神奈川県西部地震説(石橋克彦神戸大学名誉教授)を踏まえ、1991 年から被害想定の実施、
温泉地学研究所観測網強化、防災担当部長設置等を行い、県の防災対策の基礎を構築。

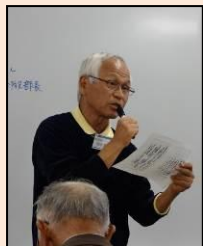
○1995 年阪神・淡路大震災後、活断層調査・地下構造調査、地震被害想定調査、防災上重要
建築物の耐震化、防災担当 24 時間体制スタート等を実施。

○2011 年東日本大震災後、津波浸水予想図の再検証、地震被害想定調査の再実施、
『神奈川県地震対策推進条例』の制定、『神奈川県地震防災戦略の策定』等を実施。

第 2 回アイスブレイク《NHK スペシャルから》

神戸地震、熊本地震から
学んだこと。

自助の備え(耐震化等)、
共助の重み(安否確認等)、
感震ブレイカの設置、家の
直下率を高める構造、
1 階の壁を耐力壁で補強、
表層地盤を反映した
『揺れやすさマップ』で
地盤を知る。



稲垣博正さん

《地震対策推進条例、地震防災戦略の施策を展開中》

○【揺れによる犠牲者】【津波による犠牲者】【火災による犠牲者】を
減らす施策(耐震化、防災訓練等)を実施。施策の数値目標を明示。

○『かながわけんみんな防災カード(右下の写真)』『かながわシイラク』

『ビュッスーかながわ』『災害時帰宅支援3-ジョ』等

の施策を継続実施中。

○熊本地震後、危機管理センターの整備等の対策を実施中。

《まとめ》公助の強化は限界に近づいている！

「防災時に命を守り、そして被災後に早期復元」

◇「自助」「共助」の強化

◇「防災のための」ではなく、

「普段の生活やビジネスを効率的にする工夫(=防災)」

の取組みに。

